縮

六年

画数 17

筆順 紵 紵 縮 縮

オン シュク

クン ちぢ＝む＝まる＝める ＝れる＝らす

成り立ち

縮

〝宿（年 332）〟は、昼の間、広く散らばって働いていた人たちが、集まって来て、夜休む所です。

広がっていたものが〝まとまり〟集まる意味の〝宿〟と、〝糸〟とを組み合わせて作った字です。

「糸が〝ちぢむ〟」ことを表した字です。今では、糸にかんけいなく、〝ちぢむ〟〝ちぢまる〟〝ちぢめる〟という意味に使います。例伸縮、収縮、縮図、縮写、短縮、圧縮、恐縮、縮小、縮減、縮刷、濃縮、萎縮。

使い方

▽わたしは毛虫が大嫌いです。毛虫の形も嫌いですがモゾモゾと体を伸縮させるかっこうを見ると、本当にゾッとしてしまいます。

▽ぼくは、ある時、道に落ちていた財布を交番に届けたことがあります。幸いに、落し主があらわれて、財布は無事その人の手に渡りました。その人がとてもよろこんで丁寧にお礼を言って、お金の一割をくれたので、ぼくは恐縮してしまいました。ひろったお金を届けるのは当たり前のことですから。

熟語例

▽伸縮（伸び縮み。伸びたり縮んだりすること。）

▽収縮（ひきしまって縮まること。）

▽縮図（大きさを縮めて書いた図）

▽縮写（縮めて写すこと。縮めて写したもの）

▽短縮（短く縮めること。）

▽圧縮（圧力をかけて縮めること。また、文章などを短く縮めることなどにも、つかいます。）

▽恐縮（恐れ入って、身を縮めること。）

▽萎縮（衰えて縮まること。縮んで元気がなくなること。）

熟

六年

画数 15

筆順 亨 孰 孰 熟

オン ジュク

クン う＝れる

成り立ち

熟

先祖の祭壇の形を表した〝享〟と、祭壇の前にひざまずいてお供え物をしている人のすがたを表した〝丸〟と、火の燃える様子を表した〝灬〟とを組み合わせて作った字です。

「祭壇に供える物を火でよく〝にる〟こと」を表した字です。

〝煮る〟こと、〝うでる（ゆでる）〟ことです。例半熟。〝うれる（よく実ること）〟という意味にも使われます。例成熟、早熟。

また、物事が「よく行われる」「十分に進む」意味に使われます。例熟練、熟考、熟読、習熟、円熟。

使い方

▽ぼくは半熟の卵が好きです。固ゆでにした卵はあまりおいしくありません。一口かむと、黄身がとろりと出てくる位が一番おいしいと思います。

▽古典文学は、一見、古くさくてとっつきにくいように思われますが、熟読すると、味があっておもしろいものです。一度、読んでごらんなさい。

熟語例

▽半熟（十分、煮ていないこと。）

▽成熟（よく熟して成長していること。果物や穀物などに限らず、人間の心や、情勢などについても、つかう言葉です。）

▽早熟（成熟がふつうより早いこと。「早熟な才子」などというふうに、つかいます。）

▽熟練（十分に慣れて、上手になること。「わたしは料理には熟練しています」などというふうに、つかいます。）

▽熟考（十分に、よく考えること。「熟考のすえ、決めました」などというふうに、つかいます。）

▽熟読（十分に、よく読むこと。）

▽習熟（習って、十分できるようになること。）